

# 談呆国憂

season 2 VOLUME 45

今月の憂いコト

東京都知事選の結果から、  
メディアの言論操作、  
教皇フランシスコの警鐘、  
プルトニウム返還要求まで！

京都文化博物館で開かれた「京都府美術館工芸新鋭展」に特別出品されたヤノベケンジ氏の最新作「サン・シスター」を仰ぎ見て、動物のオブジェが付いた「チャーチ・チエア」に座りながら、対談を始めた田中・浅田両氏。「サン・シスター」の視線の先にある太陽は、日本を明るく照らすのだろうか？

photographs by Hiroshi Takaoka text by Kentaro Matsui

# 憂

田中康夫

浅田彰

**東京都知事が舛添要一に、NHK経営委員の放言も。**

浅田 ずっと前から放射能にこだわり、1997年にチェルノブイリを訪れもしたヤノベケンジが、フクシマの後は「恥ずかしいほどポジティブなもの」をつくらなきゃいけないと言って、「サン・チャイルド」、そしてこの「サン・シスター」をつくった。好き嫌いはともかく、主観的な美意識をかなぐり捨てた潔さは大したものだと思うよ。椅子は「あいちトリエンナーレ2013」の展示会場をそのまま結婚式場にするためにつくられたものだけど、いろんな動物のつがいが付いているところが面白い。

田中 長いモノに巻かれる。事なかれ主義の自粛「に閉じ籠もるのが大人の「分別」だと勘違いする空気が、政治や報道だけでなく芸術にまで漂う中、あっぱれだね。単なるカワイイを超えたい。パワー。

浅田 さて、新しい東京都知事が舛添要一に決まったね。脱原発を目指すが大だちに原発ゼロは無理だと言う一方、元厚労相として福祉の充実を図ると言っている。バランス感覚を見せ、何よりオリンピックを目標として東京を世界一の都市にするという空疎な希望で大衆を煽った。でも内実は自公の組織選挙に乗っかっただけ。

「反原発の民意を代表する候補が宇都宮健児元日弁連会長と細川護熙元首相しかおらず、しかも一本化に失敗したのが痛かった。細川は、植林の専門家の宮脇昭と組んで、300キロメートルにわたる東



北の沿岸部に震災がレキを積み上げた土手を設け強く根を張る広葉樹を植えて防波堤にするという「森の長城プロジェクト」を始め、その後藤新平賞を受けた。以前にも話したように、後藤新平は関東大震災のあと国務大臣として復興に尽力し、自ら東京市長になったんで、もしかすると細川はそんな後藤の姿に自分を重ねたのかもしれない。そこへ反原発に転じた小泉純一郎から声がかかって担がれちゃったわけだけど、準備不足は否めなかったね。

田中 細川が述べた「脱原発は文明の転換を求める戦い。日本人の生き方の問題」ってのは、その通り。でも、それは天動説から地動説へという話だから、よほど死に物狂いで立ち向かわないと「政官財学報」の現状追認ペンタゴンには勝てない。

奇しくも僕が13年前、9つの県営ダム計画を大転換すべく「脱ダム」宣言を発した時も東京新聞と同系列の中日新聞以外には、読売、産経に加えて朝日や毎日も、脱ダムは独断的な空理空論だと地元支局発でデイスる紙面展開で包囲網（苦笑）。原発は推進側の日経が、費用対効果の観点で脱ダムだったのは印象的だけどね。

ガリレオ・ガリレイの足元にも及ばないけど、知事不信任決議を出されても「怯まず・屈せず・逃げず」の覚悟で立ち向かって、8つのダム計画を中止に追い込んだ。でも、長野市の活断層が走る場所に計画されていた浅川ダムだけは、僕の就任時に本体工事すら始まっていなかったのに、100億円を投入して取り付け道路が先に完成

していたのを理由に、Uターンできぬと総務省出身の現知事が建設着工。真下には善光寺があるけど、決壊してノアの箱舟状態にならないことを願ってるよ。

話を戻すと、「成長から成熟へ」と以前から説き、「幸福の指標」を金銭的豊かさから精神的豊かさへ転換しようという細川の主張は、かつての大平正芳の「田園都市国家構想」にも通じるし、まさに「ソトコト」的とも言える。北海道大学の中島岳志が、彼の主張は単なる「原発からの脱却」ではなく、「原発を前提とする社会からの脱却」だと語っていた。だけど、小泉・細川ツーショットでの立候補表明から1週間以上も記者会見せず、しかも2回も延期して告示日前日だったのがねえ。



浅田 政治家が決断して方針を示せば、具体的な政策は必ず後から付いてくるという小泉の言葉は正しいんだけどね。

田中 その通り。とはいえ、たとえ大まかにせよ原発廃炉や核廃棄物処分の工程表は示すべきだった。でないと、Uターンさせまいとする勢力のプロパガンダには打ち勝てない。まあ、これは原発維持・推進派にも同じことが言えるわけで、トイレなき原発をどうするか、最終処分場所すら決まっていけないほうが無責任じゃないか、と小泉が絶叫していたのは正論だ。

他方で、脱原発以外の政策は誰が都知事になっても大して違いない、と演説したのはプレゼンテーションとして少し粗雑だったね。どんなに福祉政策を充実させても

フクイチ状態になれば、人が住めないじゃないか、すべての人間の営みは脱原発からだ、と論理展開するべきだった。

浅田 ドイツは社民党政権のとき連立相手の緑の党に押されて脱原発の方針を決めた。それを破って政権をとった保守党のアンゲラ・メルケル首相が賢いのは、敵の政策をまんまと横取りした。福島原発事故の後「我々は賢い選択をした」って威張ってたけど、鮮やかな政策転換だよ。小泉はむしろ、かつて原発導入の旗振り役だった中曾根康弘元首相だって、「これからは太陽エネルギーだよ」と。さすがは風見鶏、民主制の政治家はあやうなくちゃ（苦笑）。

田中 その昔は国家主義者と言われた御年95歳の彼は新春のTV番組で、集団的自衛権の憲法解釈変更は「よほど必要がなければ簡単に手をかける問題ではない」と発言していた。民主党、共和党的に別なくワシントンが抱えている懸念を的確に把握している。恐るべし中曾根翁だね。

浅田 そもそも福島で事故を起こしたのは東京電力の原発なんで、原発問題は都知事選の重要な争点だったにもかかわらず、ピーター・バラカンが暴露した通りマスメディアがそれへの言及を避けるとか、細川を応援する小泉純一郎の姿をほとんど報じないとか、露骨に政権寄りの圧力をかけたのが大きかった。アベノミクス・ブームにせよ、東京オリンピック・ブームにせよ、マスメディアの誘導によるところが大き



いからね。安倍の肝煎りでNHK会長になった梶井勝人が「政府が右」といつ

いるものを左というわけにはいかない」と発言して報道機関の中立性を守る気がはなからないことを示したけれど、彼を待たずしてマスメディア全体が政権寄りになっちゃっている。

それにしても、安倍がNHKに送り込んだ連中の妄言には呆れるばかりだね。初井は、従軍慰安婦のようなものはどこの国にでもあったと言いつつ、オランダの「飾り窓の女」を引き合いに出す始末——そもそも戦時の性暴力と平時の売春はまったく違うし、「慰安婦」にはオランダ人女性も含まれてたつていうセンシティブな問題もあるのに。これほどの妄言を繰り返した人物が、発言を撤回しただけでNHK会長のままってのは、普通の国ではありえない。

田中 オランダを引き合いに出した一点でアウトでしょ。元々はオランダの植民地だったインドネシアを占領した日本軍の将校が35人のオランダ人女性を慰安所に強制連行し、監禁状態で強姦した「白馬事件」は、戦後の軍事裁判で有罪が宣告されているし、2007年にはオランダの下院が日本政府に対し、彼女たちへの謝罪と補償を求める決議を行っている。

しかもオランダでは合法的な「飾り窓」をNHK会長が問題視するのなら、橋下徹が顧問弁護士だった大阪の飛田新地の「顔見せ」は非合法的なのに許されるのか、とブーメランが飛んでくる話だ。三井物産副社長を務めた彼には、三井グループも頭を抱えていると思うよ。しかも「済んだことだから聞かないで」と2回目の会見で発言。会見での公人の発言を「水に流せる」と考えてるとは、「コントラクトII契約」の概念も理解せぬ自称「国際派」だ。

浅田 かとと思えば、NHK経営委員を務め

る長谷川三千子は「週刊朝日」の報道に抗議して朝日新聞社に乗り込み短銃自殺を遂げた極右活動家を礼賛して、「野村秋介氏が二十年前、朝日新聞東京本社で自殺をとりたとき、彼は決して朝日新聞のために死んだりしたのではなかった。(中略)人間が自らの命をもつて神と対話することができるといふことを露ほども信じておられない連中の目の前で、野村秋介は神にその死をささげたのである。『すめらみこと いやさか』と彼が三回唱えたとき、彼がそこに呼び出したのは、日本の神々の遠い子孫であられると同時に、自らも現御神であられる天皇陛下であつた。そしてそのとき、たとへその一瞬のことではあれ、わが国の今上陛下は「人間宣言」が何と言はうと、日本国憲法が何と言はうと」ふたたび現御神と

### 田中康夫

たなか・やすお ●1956年東京都生まれ。一橋大学法学部卒業。大学在学中に『なんとなく、クリスタル』で文藝賞受賞。長野県知事、参議院議員、衆議院議員を歴任。



それをごまかすために東京裁判をやったとか、言いたい放題。確かに南京大虐殺の被害者数は誇張の可能性があるけど、だからといって全否定はできない。アメリカの日本への爆撃は犯罪だし、東京裁判も勝者の裁きであつて完全に公正とは言えないけど、やはり全否定はできない。そうやって歴史を全否定しようとする修正主義者は極右とみなされる。ただの右派じゃなく、そういう極右イデオロギーを安倍政権はNHKに送り込んでるわけだし、世界からそう見られてるつてことを、マスメディアももっと本気で伝えるべきでしょう。

田中 長谷川、百田、初井の雑駁こそは、連中が批判する「自虐史観」ならぬ自画自賛の「自爆史観」でしょ(苦笑)。まして、「南京大虐殺は蒋介石の嘘八百」と都合「七百」も足りない百田に街頭演説されたのに、どうして親台湾派の自称「保守」の面々は激怒しないんだ？ ネットウヨ的表現を借りれば「逝つてよし」でしょ。今や反中派が反米派をも「兼務」するようになって日本の似非「保守」を気取る歴史修正主義者の夜郎自大さつて、何ですかね。前回

あの発言で安倍はますます危険なナショナリストと  
思われるようになった。(浅田)



も述べたけど、今や我々がアメリカの懸念と天皇の憂慮を伝えなくてはならない異常な状況なんだ、日本は。

### 教皇フランシスコが発表した、「福音の喜び」の意味とは？

田中 昨年の11月に、第266代ローマ教皇フランシスコが「福音の喜び」というタイトルの、グローバル資本主義が生み出した社会的不正を慨嘆する228節におよぶ文書を発表した。「トリクルダウン経済」を批判する主張に対して、バラク・オバマ大統領が早速反応し、一般教書演説でもふれ、貧富の格差を是正しなければと述べた。ロナルド・レーガノミクス「レーガン元来大統領とポロランド出身のヨハネ・パウロ2世が共闘して東側諸国の共産主義を崩壊させた80年代から一転して、今回はフランシスコとオバマが行き過ぎた新自由主義経済を是正しようとしている。ところが日本のメデアはほとんど伝えていない。この周回遅れな鈍感さは何なんだ？

イラン核開発問題に関するジュネーブでの交渉はおそらく軟着陸し、するとオバマへの評価は一変する。世界的には石油がだぶつき、価格が下落し、湾岸諸国の地位低下につながり、同時に人口8000万人のイランが欧米諸国のみならず、日本や中国にとつても魅力的な市場になる。で、これに対して危機感を抱いたサウジアラビアとイスラエルが国交もないのに共闘するといふ不思議な状況が生まれている。一説には、イスラエル空軍のサウジアラビア領空通過を認める秘密協定を結び、昨年11月に国連常任理事国にドイツを加えた6か国と暫定合意した核開発の縮小計画に違反した場合には即時イラン空爆を画策しているとも伝

えられている。いやはや。

浅田 ローマ法王として初めて「清貧」を説いたフランシスコの名を名乗り、しかも「一世」をつけない。保守派であるにもかかわらず、いやそれだからこそ、彼はある種の革命家なのかもしれないね。

オバマについて言えば、彼の外交は優柔不断で、ロシアなんかに主導権を奪われたって非難されてるけど、ブッシュ・ジュニア政権の失敗への反省は生かされて、たとえばシリアに軍事介入したら泥沼になってた可能性が高いことを思えば、今のところ結果オーライじゃない？ 前途多難で楽観は許されないものの、中東和平が少しでも進むとすれば、田中さんの言うような大きな変化をもたらすことになる。

他方、FRB議長にジャネット・イエレンが就任したけど、もともと積極財政派の彼女が、じゃぶじゃぶと金をばらまいた量的緩和の縮小を進めなきゃいけないってのは皮肉だね。アメリカ経済はまだしも、短期資金が一気に引き上げられて新興国経済が危機に陥る恐れがある。すでにアルゼンチンで通貨が暴落したし、「フラジャイル5」と呼ばれるブラジル、トルコ、南アフリカ、インド、インドネシアも危ない。日本は「異次元の金融緩和」を進めれば、アメリカが緊縮に向かうなかで円安に誘導できるけど、アメリカをはじめとする貿易相手国から非難されるだろうし、そもそもいまや輸入国なんだから全体としては円安で損するだけ。こうしてアベノミクスが行き詰まり、しかも消費増税が来るといなのが、今年の日本経済だね。

田中 2・26ならぬ12・26の靖国参拝を分水嶺として、中韓以上に欧米諸国が日本に対して態度を硬化しているのを真剣に受け



第一次世界大戦の引き金となったサラエボ事件も  
ある意味では偶発的な  
ものだった。(田中)

止めるべき。日本で言ったら朝日新聞的立場のニューヨークタイムズだけでなく、読売新聞的立場のワシントンポストが、この2月に入って社説で歴史認識を巡る安倍政権の姿勢を批判し、「オバマ政権にとって最も深刻な安全保障上の危機」を日本がアジアで引き起こす可能性に警鐘を鳴らす論説記事も掲載している。

こうした中、冷戦時代に研究用として日本に提供したプルトニウム300キログラムの返還をアメリカが求めていると共同通信がスクープした。大きく報じられるかと思いきや、毎日新聞が小さく後追いつたのみで終了している。日本のメディアの鈍感さには呆れるよ。

東海村の日本原子力研究開発機構の高速炉臨界実験装置(FCA)で使う核燃料300キログラムは、核兵器40〜50発分に相当する高濃度で軍事利用に適したプルトニウムだから日本は返還しなさいという話で、この3月にオランダで開催の核安全保障サミットで返還合意をまとめたいと米国は考えているんだ。核兵器転用可能な核物質をテロリストの手に渡してはならないと訴えるオ

こり得ない、と全面否定しないよね。その上で、過去に英独間で起こった不幸な歴史を日中間のみならず世界の各地で繰り返さないことこそ我々の責務だ、と答えるのが真のリーダー。

浅田 そう、日中間で偶発的な争いがエスカレートしないようにコミュニケーション・チャンネルを密にしていって結論をもっと強調しないと。あの発言で安倍はますます危険なナショナリストと思われるようになってしまった。

バマの安全保障戦略の一環だと外務省あたりは述べているらしいけど、もっと意味は深いでしょ。

浅田 日本のプルトニウムは核兵器に転用できるんで危ない。アメリカから見るとそういうのを安心して任せる国ではなくなったってことなんで、対米従属派は愕然とすべき事態だよ。

真の20世紀は1914年の第一次世界大戦開戦に始まると言われるし、たしかに100年後のいま当時を思わせる兆候がいろいろ現れてる。しかし、それは評論家だから言えることでしょう。ところが安倍は1月に開催されたダヴォス会議で「今年は第1次世界大戦から100年を迎える。当時、イギリスとドイツは互いに最大の貿易相手国どうしであったにもかかわらず戦争は起こった」と語り、開戦直前の英独関係に現在の日中関係をなぞらえた。首相がそんなことを言ったら世界のメディアに注目されるのも当然だよ。

田中 通訳の言い間違えだと日本では報じられたけど、質問されたら真っ先に、日中間にそのような事態は現在もこれからも起

田中 第一次世界大戦の引き金となったサラエボ事件もある意味では偶発的なものだった。自衛隊は今のところ中国の挑発に応じない冷静な姿勢でいるけど、2代前の国家主席だった江沢民と連なる軍産複合体は自分たちの既得権益を守るべく、逆に改革開放路線の習近平・李克強体制が崩壊することを望んでいる愉快犯的な対外強硬路線の連中だ。前線で挑発をエスカレートさせてくる可能性が高い。無論、アメリカも習近平も、そんなことは望んでいない。だからこそ、僕も浅田さんも繰り返して述べているように、「日本よ、大人になりなさい。同じ感情的土俵に乗るなかれ」とアメリカも靖国参拝に難色を示してきたんだ。「ジョー・ザ・フラッグ」「ブーツ・オン・ザ・グラウンド」と以前は述べていた共和党系のリチャード・アーミテージまでね。

しかも北京の支援を受けて中国式の改革開放路線を進めようとしていた張成沢を処刑した金正恩の独善的強権体制は混迷を深めている。4月に1泊2日でオバマが来日する前に、先程のワシントンポストと同じ認識を日本の政治家もメディアも国民も共有しておかないと、ホントにクリティカルな局面に直面しちゃうよ。



浅田 彰  
あさだ・あきら ●1957年兵庫県生まれ。  
京都大学大学院経済学研究科博士課程中退。京都造形芸術大学教授。  
83年に出版されたデビュー作『構造と力—記号論を超えて』はベストセラーに。